

学報

愛知県立芸術大学 学報

No. 68

新型コロナウイルス感染症特集座談会 「感染制御は アートだ」





清水 宣明 しみずのぶあき

愛知県立大学 看護学部 教授
医学博士。2000年より群馬大学医学部助手、同大学医学系研究科講師を経て、2014年4月より愛知県立大学看護学部教授。専門分野は感染制御学、ウイルス学。



戸山 俊樹 とやまとしき

愛知県立芸術大学 学長
東京藝術大学大学院オペラ科修了。2009年本学音楽学部長兼研究科長、2013年本学副学長、2019年より本学第11代学長に就任。



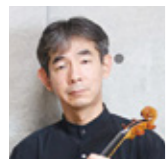
岡田 眞治 おかだしんじ

愛知県立芸術大学 副学長
本学美術学部絵画専攻日本画卒業、同大学院美術研究科絵画専攻修了。2019年本学美術学部長兼研究科長、2020年より本学副学長に就任。日本美術院(特待)。



倉地 久くらちひさし

愛知県立芸術大学 美術学部長兼研究科長
(美術学部 美術科 油画専攻 教授)
本学美術学部絵画専攻油画卒業、同大学院美術研究科油画専攻修了。2017年本学芸術資料館長、2020年本学美術学部長兼研究科長。専門分野は版画・版表現、版画学会会長。日本版画協会理事。



福本 泰之 ふくもとやすゆき

愛知県立芸術大学 音楽学部長兼研究科長
(音楽学部 音楽科 楽器専攻 弦楽器コース 教授)
島根大学教育学部特音課程卒業、本学大学院音楽研究科楽器専攻修了。2015年より2021年3月まで音楽学部長兼研究科長。専門分野はヴァイオリン音楽。



新型コロナウイルス感染症特集座談会

「感染制御はアートだ」

「感染症はエアロゾル感染と飛沫感染が原因」という愛知県立大学看護学部清水先生のお話と「指導のもとに、いち早く感染症対策に取り組んできた愛知県立芸術大学。常に自分たちで考え作り、実行を繰り返してきた先生方および清水先生に、これまで取り組んできた対策内容やさまざまな思い、また今後についてお話を伺いました。(取材・文 小山芳恵)」

清水先生の指導のもと 感染対策を実施

―はじめに、清水先生とは愛知県公立大学法人の教職員向けオンライン講演がきっかけで、学内の感染対策をご指導いただくことになりました。

清水 新型コロナウイルスなどの呼吸器感染症はエアロゾル感染と飛沫感染が基本となります。特に集団感染の場合、エアロゾル感染の可能性は非常に高いです。日本の医療では、エアロゾルによる感染症は結核、はしか、水疱瘡だけという認識がありますが、結果としてそれが今、足を引っ張っているのだと思います。各地で発生しているクラスターも、エアロゾル感染についてきちんとした知識があれば早めに対処できたでしょう。

岡田 先生のお話のおかげで見聞を広げることができて、むやみに新型コロナウイルスを怖がることもなくなったと思います。

倉地 そうですね。正しく怖がらなくてはいけないというか。

授業ができるよう、柔軟に対応されています。

福本 先生からアイデアをいただき、我々も試行錯誤をしながら対策を行ってきました。夏と冬の感染対策の違いなどにも配慮しながら、現在もどんどん改良を重ねています。

戸山 各教室にスモークをたいて、どのくらい換気ができているかを調べるスモークテストは清水先生がお考えになったものですか？

清水 そうです。最初はタバコで実験しようと考えたのですが、はっきりと煙の行方が見えないと判断がつかないので、スモークで行うことにしました。これは愛知芸大で初めて行いました。

戸山 スモークマシンを買って、福本先生と倉地先生の両学部長が先頭に立ち、教職員総出で学内の教室や部屋のすべてをテストされるという、とても大変な調査でしたね。

福本 少しでも早く対面授業を行いたいという、その熱意で頑張りました。5月中旬から下旬にかけて、ほとんどの教室を確認して回りましたね。とにかくよく歩きました(笑)。

清水 そういう意味では、愛知芸大の先生方は決断と実行が早いので、感心しました。

倉地 関東地区の芸術系大学では休学す

戸山 何が正しくて間違っているのかを自分の頭で考える人が少ないのでしょうか。情報を鵜呑みにしてむやみに不安を大きくしている人が多い。

清水 その点愛知芸大の先生方は皆さん自分の頭で考え作り、確かめることをしていらっしゃる。その姿勢に感動しました。

倉地 それにはやはり、実技を重要視したいという思いが根底にあります。

戸山 芸術大学の対面授業は、一般的な大学と意味がまったく異なります。実技では、楽器などの道具の共有などがどうしても避けられず、みんなが不安に感じていました。しかし清水先生に、それは感染の原因にはならないと強くいつていただいたことで不安が払拭できました。「やるべきことをやっていたれば大丈夫」という、どこの芸術大学もなし得なかったことを行い、今も学内は落ち着いて授業が行えています。

福本 清水先生ご自身もフルートを吹いていらつしたから、実技の重要性をよくわかってくださるのでしょう。

清水 そうですね。愛知芸大の先生方は皆さん科学的です。感染症をきちんと理解し、対面

する学生が多く、また一度リモートになって対面授業が復活し、またすぐにリモートにするという大学の対応にクレームも多いと聞いています。

戸山 その点、うちの大学はコロナを理由に休学する学生も少ないです。学生一人ひとりの環境も違うし、音の問題もタイムラグもあるので、芸術系の大学はリモート授業は難しい。じゃあ我々に何ができるか、ということを実践に考えてこまごまやってきました。

清水 私も、芸術の学びには「場」があることが大切だと思います。「場」の中で、学生も細かいヒアスを覚えていくものですよ。

正しく恐れることを 教育に取り入れる

戸山 清水先生は、諸外国での感染状況はどのように感じていらつしますか？

清水 もともと日本とは生活様式が違うので、なかなか収束しないのではないのでしょうか。

戸山 確かに、生活習慣の中にハグや握手などのスキンシップが多くありますからね。家庭内の感染が多いのでしょうか？

愛知県立芸術大学における新型コロナウイルス感染症への対応状況(2020年)

日にち	事柄
2月3日	「新型コロナウイルス感染症への対応について」通知
2月25日	愛知県立芸術大学新型コロナウイルス感染症対策本部会議招集
2月26日	愛知県立芸術大学×名古屋フルハーモニー交響楽団 スペシャル・ジョイント・コンサート(2月27日予定)等関係演奏会の中止を案内以降、9月末まで、主催演奏会の一一般公開を見合わせ
3月5日	愛知県立芸術大学学位授与式規模縮小の案内(3月25日予定)
3月11日	2020年法隆寺金堂壁画模写 春季展【特別陳列】仏×装(会期:3月11日～3月31日)の中止を案内以降、キャンパス内で開催する展覧会の一般公開を見合わせ
3月13日	愛知県立芸術大学の入学式中止を通知(4月9日予定)
3月20日	オープンキャンパス2020の開催見送りを決定(5月30日・31日予定)
3月23日	令和2年度前期授業開講の延期(4月13日→20日)・新入生ガイダンスの延期(4月9日・10日→4月16日・17日)を通知
3月25日	卒業生・修了生への学長メッセージを掲載
3月31日	「新型コロナウイルス感染症に対する対応について」を決定
4月3日	第51回卒業演奏会、第13回大学院修了演奏会を動画配信サイトにて公開(4月10日まで)
4月8日	令和2年度前期授業開講の再延期を通知(4月20日→5月11日)
4月8日	授業料(令和2年度前期分)の納付期限を2か月延長(4月30日→6月30日)
4月10日	愛知県が新型コロナウイルス感染症の「緊急事態宣言」を発出したことを受け、学内立入り禁止(4月11日→5月6日)
4月14日	新型コロナウイルス感染防止ガイドライン策定
4月16日	新入生への学長メッセージを掲載
4月16日	学内立入り禁止期間を延長(5月6日まで→5月31日まで)
4月17日	遠隔授業の実施を決定、通知(5月11日～29日まで)
4月17日	新入生ガイダンスの中止を通知(5月8日)
4月24日	新型コロナウイルス感染拡大防止対策一覧表を掲載
4月27日	2020年度前期の休学について学生への配慮(特別受付5月29日まで)
5月8日	前期授業開始にあたり学長のメッセージ動画を掲載
5月11日	前期授業を開始(5月29日までは遠隔授業)
5月13日	愛知県立大学法人による「学生緊急支援金」支給制度として対象者一人あたり50,000円の給付を決定
5月15日	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)における愛知県立芸術大学の活動指針を策定
5月21日	6月1日からの対面授業開始を決定
5月20日～27日	スモークマシンによる換気テストを学内において実施(以後、継続して実施)
5月下旬	学内施設に、換気用サーキュレーター約600台、飛沫防止パネル等感染対策用品を配備
5月下旬～6月	学内施設に感染拡大防止対策として網戸等整備
5月22日	学生への入構制限を一部解除
5月29日	愛知県立大学法人において、「学生緊急支援基金」創設 寄附の募集を開始(12月31日まで)
6月1日	全国に先駆け、対面授業を開始 (主に実技系科目 感染拡大防止措置を講じた上で、感染リスクを抑えることが可能と判断した授業科目から段階的に対面授業を開始)
8月31日	愛知県立芸術大学WEBオープンキャンパス2020を開催(12月24日まで)
9月11日	サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会を再開 収蔵品展 I Re OPENING 共鳴する絵画
9月22日	愛知県立芸術大学管弦楽団 特別公演を学内限定開催
9月28日	対面授業と遠隔授業を併用し、後期授業を開始
10月6日	大学主催演奏会の一一般公開を再開(事前予約制、席数制限有) 愛知県立芸術大学音楽学部第53回定期演奏会
10月31日	オンラインで芸術祭を開催(11月1日まで)
11月4日	愛知県立芸術大学管弦楽団 特別公演を動画配信サイトに公開(12月4日まで)
11月12日	本学独自の換気対策を「愛知芸大SV方式」として提案
11月18日	第45回美術学部教員展をVRIにて公開
12月19日	愛知県立大学清水教授、中京テレビによる室温を極力下げないで室内を換気する方法を確立するための実証実験実施



最新の対応状況を本学ウェブサイト内「新型コロナウイルス感染症への本学の対応等について」に掲載しています。
https://www.aichi-fam-u.ac.jp/news/topics_018414.html

していても先に進まないで、今の状況でベストなことをやるのが大切だと思います。
福本 確かに、人によって温度差はあります。その中で基準をどうやって見出し、周知徹底させるかを、繰り返ししていくしかないですね。
戸山 我々は自信を持っていいと思います。この対策を継続していくことが重要です。
清水 どんなこともゼロリスクはないので、もし学内で感染者が出たらどう対応するかを決めておけばいい。災害対策も同じです。今何ができるか、どこまでできるか自分の力を知っておくことが大切です。きちんと戦うためにはまず現状を知らないといけないと思います。

戸山 それこそまさに知性が問われることですね。私も、愛知芸大の先生方が正しく恐
倉地 最近新型コロナウイルスの変異体も話題になっています。
清水 ウイルスはどんどん変異していきます。例えば、ある人に感染して増えて、体外に出る
倉地 今後はワクチン接種を行った学生やそうでない学生など、いろいろな人が混在する中でどう対応していかがまた考えなくてはいい
清水 さすが、トライ&エラーを繰り返している方々だと思います。科学者は物事を考える時に法則や定説からなかなか抜け出せませんが、先生方は作品づくりに対して常に戦っている方々だと思います。私がかつていたような、そんな先生方だからこそできた今回の対策だと実感します。私がかつていたような、そんな先生方だからこそできた今回の対策だと実感します。

倉地 我々は対策を行い、実習も極力やめず
清水 予測としてはそうです。収まってきたら、学内の換気も重点箇所だけ気をつけるようにすればいいと思います。
岡田 第二類から第五類へと、国の基準も変わっていくのでしょうか。
清水 変わるとは思います。治療法も今より進んでいくので、重症化が抑えられたら状況は良くなると思います。
倉地 本学では、将来的に長寿命命化が進む世の中に対応して、長期計画で設備改革を行っています。油画専攻は今回の換気対策を踏まえた設備改革を考えていますが、世の中でもこうした動きになりつつありますか？
清水 換気については世間でも重要視されるようになってきていると思います。今回も、大規模感染が起こった原因のひとつにはビルなどの集中換気が考えられます。もし設備改革を行うならできるだけ個別の換気を考えていく必要があるでしょう。

に「ここまでやってきています。こうした例を世の中に発信することは、感染症対策の正しい知識を発信することにつながると思います。
清水 そうですね。今後は本当にトラブルが起こった時、これまでの感染対策がよかつたかどうかを試されます。しかし感染者が出たとしても、決して負けてはいけません。対応を改善して、さらに力をつけることが重要です。
岡田 本心に怖がってばかりいてはだめですね。
清水 リモート授業を工夫して行えるようになったのはよかったです。愛知芸大と同じく実習に関してはデメリットも感じています。
福本 今後は、「この授業はリモートです」というカリキュラムが作られるかもしれません。リモートで他大学間の単位互換も進むかもしれませんね。
清水 そうですね。とにかく、感染症対策は逃げる不安が大きくなるばかりなので、戦わなければいけません。その点、愛知芸大は最初から攻めの姿勢で戦ったと思います。
戸山 学内でも先が見えない不安を恐れる方もいらっしゃいます。しかし「たれば」を話

清水 家庭内や、友人の集まりでの感染というケースが多いと思います。厳しい緊急事態宣言下でも、個々の活動はなかなか抑えられない文化でしょうか。
岡田 日本では今回、飲食店を主に自粛が行われていますが、感染を抑える効果は見込めるのでしょうか。
清水 飲食店は感染症調査が行われると、どうしても対象になりやすいのですが、感染経路が不明なのに飲食店が怪しいという論理はおかしいです。
倉地 最近新型コロナウイルスの変異体も話題になっています。
清水 ウイルスはどんどん変異していきます。例えば、ある人に感染して増えて、体外に出る

れ、戦ったことはすばらしいと感じています。我々は一人ひとりがアーティストであり、常に「どうしたらよくなるか」と毎日考えています。という不安定な状況にも慣れている。何が起きてでも焦らないために練習は積み重ねますが、それでも避けられないトラブルはあります。そんな時も慌てない。その考え方が今回の対策の根底にもあったと思います。
清水 さすが、トライ&エラーを繰り返している方々だと思います。科学者は物事を考える時に法則や定説からなかなか抜け出せませんが、先生方は作品づくりに対して常に戦っている方々だと思います。私がかつていたような、そんな先生方だからこそできた今回の対策だと実感します。私がかつていたような、そんな先生方だからこそできた今回の対策だと実感します。

ですか？」と言われた時に、大学としてどう対応するかなど。
戸山 そもそも清水先生は、ワクチンについてはどうお考えでしょうか？
清水 ワクチンは感染拡大を少し抑えることはできるでしょうけれど、インフルエンザやワクチンを接種しても発症する人がいるように、完全に感染を止めることはむずかしいでしょう。
倉地 「ワクチンを接種したから大丈夫」という間違った情報を信じないように、正しく恐れることを学生に教えていく必要がありますね。
戸山 新型コロナウイルスの猛威は2年くらいで収束するのでしょうか？
清水 予測としてはそうです。収まってきたら、学内の換気も重点箇所だけ気をつけるようにすればいいと思います。
岡田 第二類から第五類へと、国の基準も変わっていくのでしょうか。
清水 変わるとは思います。治療法も今より進んでいくので、重症化が抑えられたら状況は良くなると思います。
倉地 本学では、将来的に長寿命命化が進む世の中に対応して、長期計画で設備改革を行っています。油画専攻は今回の換気対策を踏まえた設備改革を考えていますが、世の中でもこうした動きになりつつありますか？
清水 換気については世間でも重要視されるようになってきていると思います。今回も、大規模感染が起こった原因のひとつにはビルなどの集中換気が考えられます。もし設備改革を行うならできるだけ個別の換気を考えていく必要があるでしょう。



スモークテストの様子

清水 リモート授業を工夫して行えるようになったのはよかったです。愛知芸大と同じく実習に関してはデメリットも感じています。
福本 今後は、「この授業はリモートです」というカリキュラムが作られるかもしれません。リモートで他大学間の単位互換も進むかもしれませんね。
清水 そうですね。とにかく、感染症対策は逃げる不安が大きくなるばかりなので、戦わなければいけません。その点、愛知芸大は最初から攻めの姿勢で戦ったと思います。
戸山 学内でも先が見えない不安を恐れる方もいらっしゃいます。しかし「たれば」を話

愛知県立大学看護学部もコロナ禍ではいろいろな状況が変化したと思います。
清水 リモート授業を工夫して行えるようになったのはよかったです。愛知芸大と同じく実習に関してはデメリットも感じています。
福本 今後は、「この授業はリモートです」というカリキュラムが作られるかもしれません。リモートで他大学間の単位互換も進むかもしれませんね。
清水 そうですね。とにかく、感染症対策は逃げる不安が大きくなるばかりなので、戦わなければいけません。その点、愛知芸大は最初から攻めの姿勢で戦ったと思います。
戸山 学内でも先が見えない不安を恐れる方もいらっしゃいます。しかし「たれば」を話

今の状況をよく見極め、きちんと戦うことが重要

WEBオープンキャンパス2020

当初、2020年度のオープンキャンパスは、5月下旬に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの出現により、その感染拡大防止とオープンキャンパスに参加される皆さんの安全面を考慮した結果、残念ながらその実施を中止せざるを得ないと判断いたしました。多くの受験生の皆様も期待をしてくださっていたにも関わらず、大変、申し訳ない結果となりました。

その後、学内で協議を行った結果、その代替としてWEBによるオープンキャンパスを実施することを決めました。そして8月31日(月)から12月24日(木)までのおよそ4ヶ月間にわたり、本学ウェブサイトに特設サイトを設け、動画等によるオープンキャンパスを開催いたしました。

教員展のVR公開

毎年秋に開催している教員展ですが、今年度はバーチャルギャラリー「つまりVR(バーチャルリアリティ)展示になりました。当初、新型コロナウイルス感染症対策のため、展示の中止か、人数制限による学内限定公開の方向で進んでいました。この様な状況の中で3DVRサリセス事業を行って、「ドリフト・フォトグラフィー」から、本学の展示のVR化について協力の申し出をいただき、VR教員展が実現しました。VRは仮想現実の意味ですが、実際の展示を行い、展示会場において、作品や空間を三次元データに変換する3Dス

演奏会の動画配信について

大学主催の演奏会は、2月下旬からコロナウイルスの影響で、自粛や延期などの影響を受けてきました。3月下旬には学内で優秀な成績を収めた学生による卒業演奏会、修了演奏会が予定されておりましたが、コロナ禍で例年と同じようにお客様に会場にいらしての開催は困難と判断しました。しかしながら、卒業を予定している学生達が主役の演奏会を延期することは賢明な判断ではなく、動画配信という方法を選択して実施することとなりました。

無観客でなおかつ拍手のない舞台に一人で歩み出て、パフォーマンスに集中するという、今までとまったく勝手の違う舞台空気感の中での演奏に戸惑う学生も多かったと思います。しかも失敗は許されないと発振り、演奏後は舞台袖で涙する学生を多く見かけたのが印象的でした。この涙は何を意味していたのでしょうか?もちろん自分の演奏の出来不出来に対する感情もあるでしょう。

具体的には、大学全体に関する「大学ガイダンス」、「入試ガイダンス」、「就職支援ガイダンス」に始まり、専攻(コース)別に「専攻(コース)ガイダンス」、「FAQ」、「学生インタビュー」など、動画を中心とした本学の様子をYouTubeチャンネル等を通じて公開した内容となっております。

また、音楽学部の作曲専攻作曲コース、器楽専攻弦楽器コースにおいては、事前申込制による個別レッスンも実施いたしました。その結果、多くの方に閲覧をしていただくことが出来ました。ここに深く感謝申し上げます。有難うございました。

古田昌明(入試課長)

キャンセカメラを使って撮影し、三次元モデルに変換します。それらをWEB上に構築し、VR空間となつた芸術資料館の内部を移動できる展示としました。

小さい作品から、映像の作品まで、バリエーションがあり撮影も大変だった様ですが、展示の新しい形として提案できたかと思えます。もちろん適切な展示を行うことは今後の課題となりました。このVR展示は現在でもご覧いただくことが出来ます。

関口敦仁
(芸術資料館長)



ウェブサイト: https://www.aichi-fam-u.ac.jp/news/topics_018971.html

サテライトギャラリーSAKURAでの展覧会

サテライトギャラリーSAKURAは約80平米ほどの地下のギャラリーという事や、学外の方が来廊されるという事で、再開に至るまでには大変気を使いました。感染対策として、ドアの常時開放やサーキュレーターを設置したほか、換気機能を測るため、愛知芸大独自の「スモークテスト(注)」を行い、学内基準を満たすことを確認しました。また、消毒液の設置や来観者カードの記入などをお願いして、9月から展示を再開することが出来ました。

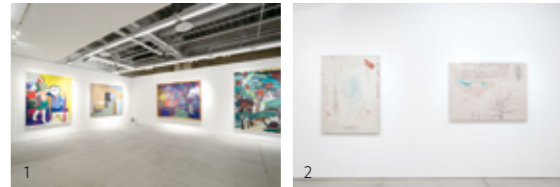
「収蔵品展Ⅰ Re OPENING 共鳴する絵画」は創立から五十数年が過ぎた今、創立初期の卒業生の作品に着目。本学の礎が感じら

アートラボあいち愛知県立芸術大学 企画展覧会「ら抜きの仕事」

あいちトリエンナーレ芸術大学連携プロジェクトとして、大崎のぶゆき准教授企画による展覧会「ら抜きの仕事」を開催いたしました。本展は、昭和初期に現れた「ら抜き言葉」を骨子に、口語表現を変化の途上にある中立的な意味で捉えた上で振舞の類語でもある仕事に焦点を当てて企画いたしました。

古来の伝統的習俗でもある切り絵をメディアムとして用いた谷澤紗和子氏、日常生活におけるサイクルの反復と差異を描いた近藤佳那子氏、テーブルを囲む複数のペルソナ

れる展覧会でした。次に今年度で退任される油画の設楽知昭教授の「設楽知昭退任記念展」を開催しました。ほぼ新作で埋められたそれらの作品展示は、創立時から現在までの芸大の空気を気に感じさせる不思議な感覚と優しさを感ずるものになっていました。そして「収蔵品展Ⅱ 絵画の生まれる場所」は設楽教授の同世代から少し後輩の80年代の卒業生たちに焦点を当てました。



1 「収蔵品展Ⅰ Re OPENING 共鳴する絵画」展(担当芸員:川上真由子)
2 設楽知昭退任記念展

(注) スモークテスト: 本学で、換気機能を確認するために実施している試験。スモークマシンにより、スモークを発生させ、空気の流れや換気にかかる時間などを確認する。

や、中世の世界観に没頭した驢馬に跨る人物の虚像を題材にした後藤あこ氏、三名の作家による作品群と、法ともなり得るタイトルが見事に相俟った展覧会となったのではないだろうか。平安時代に日本語の表記方法である平仮名を広めたのが女性作家であった事も、想起する事が出来たかもしれません。女性作家に焦点を当てた本展は、ジェンダー平等を掲げたあいちトリエンナーレ2019の意義を継続的に考える意図が込められています。



企画: 大崎のぶゆき(油画専攻准教授)
撮影: 園田加奈
展覧会: アートラボあいち芸術大学連携プロジェクト
愛知県立芸術大学企画展覧会「ら抜きの仕事」
日時: 2020年7月23日(木・祝)~ 8月30日(日)11:00~19:00
開館日: 金・土・日曜および祝日
場所: アートラボあいち(名古屋市中区丸の内3丁目4-13愛知県庁大津橋分室3階)
ウェブサイト: https://www.aichi-fam-u.ac.jp/news/topics_018696.html

2020年度東北キャラバン

音楽学部では、「東北キャラバン」と銘打ち昨年度より音楽高校・音楽科へのアピール活動をスタートさせました。各専攻コースから計5名ほどの教員が出張し、生徒と先生方を集めてのコンサート、本学紹介のプレゼンテーション、それぞれの専門に分かれてのミニレクチャーなどのプログラムを行います。今年度は、10月に県立山形北高校音楽科を訪問しました。皆さん非常に喜んで下さり、口々に「流プレーヤーの演奏を直に聴いたり大学教員の指導を受けたりする機会が普段なく、大変勉強と刺激になりました。また分かりやすい大学案内を

お聞きして一気に親しみが湧いた」との嬉しい感想。情報交換では、「愛知芸大のことはもちろん知っていて生徒達の憧れのつだが、敷居が高い印象で、志望するにはなかなか勇氣が必要」というようなお話もあり、こういった直接の交流や演奏等に触れあつて頂く機会の積み重ねがとても重要と改めて感じる体験となりました。今後は、東北に限らず本学への進学が多くない他地域にも目を向けていく展望もあり、本活動を少しずつでも継続発展させていければと願っています。



提供: 山形県立山形北高等学校

第31回愛知県立芸術大学オーケストラ定期演奏会

第31回愛知県立芸術大学オーケストラ定期演奏会が11月27日に行われました。

毎年日本を代表する指揮者の方々に指導をお願いしておりますが、今回は世界的に活躍されている、ユベール・スタン氏を招聘いたしました。3年越しでの招聘でしたが、こともあろうに新型コロナウイルスとぶつつかってしまったのです。海外からの演奏家が次々と来日不可能となる中、氏の来日も絶望的かと思われましたが、来日は奇跡的に実現しました。練習場所、演奏堂はコロナ対策として、舞台側面の反響板を開け、換気のための



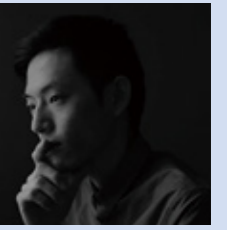
昭和49年（1974年）に愛知芸大の油画専攻に入学して、昭和58年より本学の教員となりました。ずっと愛知芸大でした。「ありがたうございませう」という気持ちで湧きあがるのですが、何にたいしてなのかあまりにも大きな塊なので簡単に分析できません。37年間制作をしてきた「研究室」という場も重要なのですが、学生時代から



美術学部美術科油画専攻
あらいしげあき

巡り会った多くの「ひとびと」、同級生や先輩、後輩、先生、事務の方たち、そして学生たちに、自然と「ありがたうございませう」という言葉が湧きあがります。そんな気持ちで大切に抱えて行きたいと思えます。

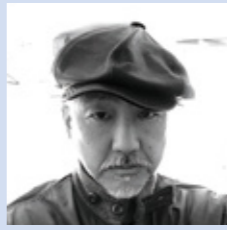
2年前に自宅をリフォームしましたので、これからはそこで絵を描く生活を続けます。



美術学部美術科油画専攻
ひらかわ ゆしき

映像インスタレーションの制作を主に行っております。近隣の名古屋学芸大学大学院メディア造形研究科を2008年に第1期生として修了し、その後約10年間に渡りアーティストとして活動を行ってまいりました。2011年にはドイツに移り住み、2017年末に帰国するまでの約6年間、現地で様々な表現に触れてまいりました。

学生時代には、舞台芸術から映画、現代美術まで幅広く制作を行ってまいりました。愛知県立芸術大



美術学部美術科彫刻専攻
たかはし のぶゆき

2020年4月に彫刻専攻に着任してすぐ、5月11日の彫刻実技Ⅱ（造形）初日はオンラインでした。学生の皆さんが手探りで始めた制作の数々は、webカメラの背景に納まってしまう密やかなものでしたが、得体の知れない压力を押し返すような熱量がありました。

私はこれまで、ハンセン病療養所でのアートプロジェクトや公害で分

断された地域での表現活動などに取り組んでまいりました。

それらはその場所に直接赴きそこにいる人と出会うことで進むことができたのですが、今やそれは簡単ではありません。

このような時代のうねりの中で一人ひとりの創造性の炎を絶やしてはならないと強く感じている今日この頃です。



美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻
もちずき みらい

2011年に愛知県立芸術大学大学院を修了したのち、食器や文具など身近な日用品を対象にデザイン活動を続けてまいりました。暮らしを共にする日用品を通じて人の豊かさや寄り添いたいという思いで活動を続けてまいりましたが、先行きの見えない時代に生きる今、この想いはより一層強くなっています。

2020年春に講師として着任し

10年ぶりに通い始めた本学ですが、学生達の持つ多様な視点や価値観に日々刺激を受け、共に過ごす時間を有意義なものであるということを実感しています。これから自身の活動を充実させていく中で、その姿が学生に対して少しでも影響をもたらすものになれば嬉しく思います。



撮影：川島保彦

美術学部美術科日本画専攻
きたの ききょ



最後の1年はコロナ禍の中、経験したことのない日々でした。世界がひとつの問題に向き合うことで日本の現実が炙り出された面もあります。前向きに考えれば、新しい時代を予感させることもありました。リモート授業では対面より学生とじっくり話しができたかもしれません。

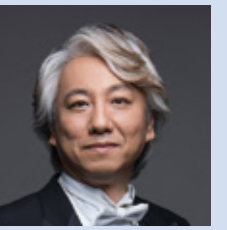
約35年間の大学勤めは愛知芸大が終着駅になりました。

本学はまとまりがあり、それだけに競い合うことで力量を高められる良さがあります。より広い世界に挑んで欲しいと思います。

4月からはひとりの画家に戻れることが楽しみです。ただ、やり残しがありますので、退任後も大学の仲間達と研究を続けることになりました。

皆様の健康と活躍を心よりお祈りします。

「秋の訪（おとな）ひ」2001年 2021年1月22日～3月14日
退任記念「北田克己～神聖な対峙から生まれるイメージ」（名都美術館）に出品



音楽学部音楽科声楽専攻
おはら ききょ

令和2年4月、声楽専攻教授に着任いたしました。新型コロナウイルスによる混乱の中、学びの機会を堅守せんとする本学の刮目すべき取り組みと、素晴らしい才能と向学心をもつ学生に接し、勇気と希望を強く感じての新学期となりました。

これまで、東京藝術大学在学中より、国立劇場等のオペラ、またコンサート等、国内外の素晴らしい指揮者や各オーケストラとも、幸運にも

数多く演奏させていただきました。また、音楽の道に入る前にはソフトウェア開発等の会社に勤務していた経歴もあります。これらの経験も活かし、木々に囲まれたこの素晴らしいキャンパスを持つ本学の、国際競争力へのさらなる一助となるべく、教育・研究に注力していきたいと思えます。



音楽学部音楽科声楽専攻
もり しずみ

令和2年度4月より声楽専攻准教授に着任いたしました。大阪教育大学、沖縄県立芸術大学大学院、ミュンヘン音楽大学大学院の演奏活動に取り組みました。

2012年に帰国したのち、もう一つ興味のあった教育の分野に飛び込み、高校教員をしながら演奏活動を続けるという少し変わったキャリアを歩んでまいりました。そのよ

うな道を歩んできたからこそ学生の方々に伝えられることがあると思っております。この大変な時代に音楽を学び、音楽家としてどのようにそれぞれのキャリアに繋がっていくのか、この素晴らしい愛知芸大の環境の中で、共に学びましょう。皆さんの自己実現のサポートができるよう全力で取り組んでまいりたいと思えます。



美術学部デザイン・工芸科陶磁専攻
とものおか ひろあき

任期最後の2020年度は色んなことで慌しくも有り、違った意味では自分を見つめ直す貴重な年でもあった気がしております。学生達や卒業生とも例年に増して一歩踏み込んだコミュニケーションがとれたように感じています。

来年度から陶磁専攻では、陶芸、デザインに加え、芸術表現コースが新設され、さらに活気が増すこと

でしょう。芸術大学の不変な価値観を信じ、限らない可能性を秘めた学生達にエールを送り続けたいと思っております。私自身は生まれ故郷の京都に拠点を移し、様々な職種の職人さん達を訪ね歩き、交流を広げたいと今からとても楽しみにしております。長年本当にありがとうございました。



音楽学部音楽科作曲専攻作曲コース
くりやま ともちか

早14年の歳月が過ぎ去りました。赴任後最初の教授会で、前任校（広島大学教育学部）とその雰囲気の違いに驚嘆したのを覚えています。会議の場でのフランクなやり取りを眺めながら、自分はアーティスト集団の中に身を置いたのだなと実感したところでした。皆一癖も二癖もありそうでしたが、ここには自分と同種の人間が多くいることがすぐに分かり嬉しくなり

ました。この何でも言える環境の中で、学生とともに今何が世の中に発信できるのかを考えながら創作活動をできたことはとても刺激的で幸せなことでした。自由な教育・研究活動をサポートして下さっていた職員の方々にも感謝しています。AUAの発展を心から願っています。きつとそのことがそのまま社会貢献につながるようになるでしょうから。

「影から操る快感」

音楽学部音楽科作曲専攻 1989年度卒業

西野 淳 にしの・じゅん



愛知県立芸術大学音楽学部音楽科作曲専攻卒業。洗足学園大学附属指揮研究所マスターコース修了。
'94年愛知国体開会式の入場行進曲の作曲など吹奏楽の作曲家として活動。
指揮者としては東宝・劇団四季・宝塚歌劇団・ホリプロ・新国立劇場などの公演において「エリザベート」
「モーツァルト!」「ダンス・オブ・ヴァンパイア」「美女と野獣」「オペラ座の怪人」「エビータ」「ウィキッド」
「1789」「ロミオとジュリエット」「ひかりふる路」「ファントム」「太平洋序曲」「イントゥーザ・ウッド」「ス
ワイニー・トッド」等の指揮を務めミュージカル指揮者として活躍している。
第21回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞。

私が愛知芸大に入学したのは1984年で学部を卒業したのは1990年…計算合いませんが、まあそういう事です(笑)。この6年間、芸祭で模擬店やったりオーケストラ部(当時は管打楽器専攻が無く、高校時代に吹奏楽部だった学生が管打楽器の中心になり、初心者弦楽器軍団に弦の専攻学生が少し混ざった感じで、年に一度だけ芸祭で本番をやるサークル)でトロンボーン吹いたり、四芸委員やったり、芸祭オペラの副指揮や指揮やったりと、とにかく皆でワイワイ何かやるのが大好きでした。

そんな学生時代から学外でも少し指揮活動を始め、オペラの副指揮のお仕事もいただくように

なり、名古屋二期会の公演で竹本泰蔵さんの副指揮を務めたことをきっかけに何本かご一緒させていただき、その竹本さんに誘われてミュージカルの世界へ。クラシック音楽界で育ってきた私には、商業演劇の世界や、クラシック以外のミュージシャンの方々のお仕事がとても刺激的で、学生時代は全く興味の無かったこのミュージカルの世界が、自分にとても合っている事がわかり、どっぷり浸かっていき今日に至ります。

しかし、音楽のジャンルに属するオペラと演劇のジャンルに属するミュージカルとのあまりの違いに最初は戸惑いの連続でした。毎回変わる芝居の流れに合わせて音楽のテンポを調節したり、動き

に合わせて音を付けたり、大学やオペラの仕事では経験したことのない事が次から次へと出てきて、音楽のジャンルもクラシックなものからロックやジャズまで幅広く、最初の頃はそれらを消化できず落ち込み悔しい思いをする毎日でした。

そんな私も今年でミュージカル指揮者30年目に突入。私の感じるこの仕事の最大の魅力は裏方であること。オペラだと、最高責任者としてポスターやチラシの最初に名前が載ったり、プログラムでは大々的に紹介されたりしますが、ミュージカルでは、チラシには名前さえ載らない事が多く、プログラムにもスタッフの一員としてチラッと紹介されるだけ。でも皆とワ

イワイやるのが好きで、トップに立つのが少し苦手な私には、とても居心地の良いポジションだったのです。ミュージカルファンの方々の中で、音楽に興味ある方以外には名前さえ覚えてもらえないようなポジション。でも実は本番で、聴覚から観客の涙腺を刺激したり気持ち昂らせたりしているのは私とオーケストラという影から操っているようなこの快感!観客の心を揺さぶり舞台を盛り上げるため、目立たないポジションでの快感も味わいながらこれからも仕事を続けます。



1 2016年1月 東宝ミュージカル「ダンス・オブ・ヴァンパイア」名古屋公演(愛知県芸術劇場大ホール)の幕間演奏
2 2020年12月 「ホリプロ60周年ミュージカル・コンサート」(新国立劇場中劇場)
3 2018年2月 名古屋文化振興事業団2018年企画公演 ミュージカル「山三と阿国」(作曲:大島ミチル氏)初演

気付きの年

音楽学部音楽科声楽専攻3年

日下 萌音 くさか・もね



2020年度の受賞
第12回 東京国際声楽コンクール 大学生部門 第3位
第74回 全日本学生音楽コンクール 名古屋大会 声楽部門 大学の部本選 第2位
2020年度 公益財団法人 山田貞夫音楽財団奨学金 給付対象者

2020年4月から5月の間、新型コロナウイルスの影響で大学が閉鎖されました。実家では祖母と一緒に暮らしているため、帰省せず約1ヶ月半、歌うことの出来ない生活を下宿で過ごしました。勉強のモチベーションを保つことも始めは正直難しかったです。

そんな中、声楽の指導教員である相可佐代子先生に提案していただいた2つのコンクールに応募しました。1つ目は、東京国際声楽コンクールでした。地区予選が6月末であり、緊急事態宣言が解除され、大学の練習室を使用できる6月頭まで1ヶ月半歌えないという不安の中、とにかく今出来ることをやるしかない、と自分を鼓舞し、ひたすら譜読みやディクシオンの

練習をしました。曲の解釈を深め歌うイメージトレーニングしたり、実際朗読出来るまで何度も声に出して読んでみる作業は、今までも大切にしていたつもりでしたが、この自粛期間では更に深く取り組むことが出来ました。実際に歌えるようになってからもこれらの勉強が大切だと痛感し、とても良い機会になりました。

6月になると徐々に対面授業が開始され、様々な制限の中で大学の練習室も利用可能になりました。大学の感染対策はとても徹底しており、その中でも従来に近い形で授業に取り組めるようにいただいています。オペラ重唱やオペラ基礎、合唱など実技の授業も安心して受講できる環境で、

先生方は熱心に指導していただき、周りの学生からも刺激をたくさん受けました。これらの授業では、大学生活が残り2年となり少し焦りを感じていた4月よりも、限られた時間で吸収できることを無駄にしないという意識が強くなり、どのような準備や練習が必要かを改めて考え直すきっかけとなりました。対面の実技レッスンでは伴奏合わせが出来ないまま上記のコンクールに臨みましたが、無事に予選を通過することができました。准本選やもう1つの全日本学生音楽コンクールの予選を受ける頃には、レッスンでの伴奏合わせが可能になり、さらに夏休みが明けると、学生のみでの伴奏合わせも可能になりました。コンクールで

は、楽屋での声出し禁止など、今までと違う不安や緊張感の中で、どうすれば今の自分を出し切れるかを考え、本番に臨むことが出来ました。

このご時世で活動が困難になっている芸術の中でも、声楽は飛沫が特に関係しておりこの先に不安を感じます。しかし愛知県立芸術大学は環境や先生方にとっても恵まれており、今音楽を学べることに心からの喜びを感じています。



全日本学生音楽コンクール 名古屋大会 入賞者記念演奏会 表彰式(中央が日下さん)



東京国際声楽コンクール 表彰式(前列左から2番目が日下さん)

在学生・卒業・修了生の昨年の主なニュース

期間：令和2年1月から令和2年12月まで

※卒業・修了年は年度で記載しています。学年は令和2年12月末日時点です。

美術学部/美術研究科

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
日本画	藤城 正晴	2007 修了	第8回郷さくら美術館 桜花賞展	奨励賞
	白石 綾奈	博後 3年	再興第105回院展	入選
	鈴木 博稀	博前 2年	再興第105回院展	入選
	成瀬 瑠花	博前 2年	再興第105回院展	入選
	橋本 薫奈	博前 2年	第15回CBC 翔け！二十歳の記憶展	準グランプリ
	水谷 真里佐	博前 1年	再興第105回院展	入選
	長野 聖司	学部 4年	再興第105回院展	入選
	堀田 美友貴	学部 4年	再興第105回院展	入選
	宮田 佳子	学部 4年	再興第105回院展	入選
	安藤 絳那	学部 3年	第1回三越伊勢丹・千住博日本画大賞展	入選
	坂本 夏子	2011 修了	愛知県美術館 2020年度第3期コレクション展	出品
	横山 奈美	2011 修了	愛知県美術館 2020年度第3期コレクション展	出品
油画・版画	田島 秀彦	1998 修了	愛知県美術館 2020年度第3期コレクション展	出品
	本山 ゆかり	2014 卒業	愛知県美術館 2020年度第3期コレクション展	出品
彫刻	占部 史人	2012 修了	清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2020	入選
	佐野 魁	2016 卒業	TOKYO MIDTOWN AWARD 2020	優秀賞
	細川 和音	博前 1年	第15回CBC 翔け！二十歳の記憶展	中日新聞社賞
	佐久間 七海	学部 4年	第78回多治見市美術展	彫塑部門 林雲鳳賞
	鈴木 涼平	学部 4年	第44回愛知県連美術展	新人賞
	鈴木 涼平	学部 4年	第73回瀬戸市美術展	美術展大賞
	鈴木 涼平	学部 4年	第41期国際瀧富士美術賞	優秀賞
	成田 帆花	学部 1年	第58回豊田市民美術展	入選
	新山 珠羽	学部 1年	第15回月のアート展	入選
	新山 珠羽	学部 1年	いい芽ふくら芽2020	入選
	新山 珠羽	学部 1年	Liquitex THE CHALLENGE	入選
	デザイン	周 瑞剛	博後 2年	第11回ポスターグランプリ
島吉 信之介		博前 1年	JAGDA国際学生ポスターアワード2020	審査員賞(ステファン・サグマイスター賞)
島吉 信之介		博前 1年	新型コロナウイルス感染予防啓発ポスター制作	
陶磁	北園 大和	学部 4年	新型コロナウイルス感染予防啓発ポスター制作	
	高田 颯平	学部 4年	第5回日本学生BtoB新聞広告大賞	金賞
	高阪 実由	博前 1年	第15回CBC 翔け！二十歳の記憶展	愛知県教育委員会賞
陶磁	戸田 奈都子	博前 1年	第15回CBC 翔け！二十歳の記憶展	準グランプリ(松坂屋画廊賞)

音楽学部/音楽研究科

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
作曲	柴田 誠太郎	2018 修了	OEK & 京響 合同公演～和洋の響～オーケストラ作品(新曲)募集	佳作
	波立 裕矢	2018 卒業	第35回現音作曲新人賞	受賞
	波立 裕矢	2018 卒業	第89回日本音楽コンクール	第1位、明治安田賞・三善賞
	倉地 佑奈	博後 1年	"WORLD CUP" IN COMPOSITION	室内楽作品部門第3位
	倉地 佑奈	博後 1年	Academia Musica International Composer Prize	ピアノ作品部門第1位
	声楽	弘中 耀心	2018 卒業	第16回 東海音楽フェスティバル

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
声楽	東原 由貴	2019 卒業	第12回東京国際声楽コンクール	新進声楽家部門本選第5位
	市野 梨沙	博前 2年	第12回東京国際声楽コンクール	新進声楽家部門本選奨励賞
	加藤 美穂	博前 2年	第12回東京国際声楽コンクール	新進声楽家部門本選入選
	加藤 美穂	博前 2年	第74回全日本学生音楽コンクール名古屋大会	声楽部門 大学の部本選第3位
	鈴木 一世	博前 2年	第12回東京国際声楽コンクール	新進声楽家部門本選入選
	溝口 万莉	博前 2年	第12回東京国際声楽コンクール	新進声楽家部門本選奨励賞
	溝口 万莉	博前 2年	第74回全日本学生音楽コンクール名古屋大会	声楽部門 大学の部本選第1位
	樋上 佳蕙	学部 4年	第12回東京国際声楽コンクール	大学生部門 入選
	奥村 心太郎	学部 3年	第12回東京国際声楽コンクール	大学生部門 入選
	尾崎 保乃歌	学部 3年	第12回東京国際声楽コンクール	大学生部門 入選
	日下 萌音	学部 3年	第12回東京国際声楽コンクール	大学生部門 第3位
	日下 萌音	学部 3年	第74回全日本学生音楽コンクール名古屋大会	声楽部門 大学の部本選第2位
鍵盤楽器	小山 百合香	学部 3年	第12回東京国際声楽コンクール	大学生部門 奨励賞
	古川 絢瑛	2019 修了	第6回なごや青少年ピアノコンクール	大学生・大学院生部門 第1位 総合1位 愛知県知事賞
ピアノ	鈴木 美穂	博後 2年	第7回デザインKピアノコンクール	第1位
	眞鍋 杏梨	博前 2年	IV Future Stars International Piano Competition	"Young Masters"部門 第3位
	眞鍋 杏梨	博前 2年	V Krystian Tkaczewski International Piano Competition	"Piano Masters"部門 第5位
	天野 穂乃香	博前 1年	第6回なごや青少年ピアノコンクール	大学生・大学院生部門 第2位
	天野 穂乃香	博前 1年	第10回ヨーロッパ国際ピアノコンクールin Japan	全国大会 特級部門 第3位・金賞
	小野 杏奈	博前 1年	新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ・オーディション(福岡)	合格
	関口 詩織	学部 4年	VI International Music Competition in Cyprus	Laureate 1 degree Special prize for the performance of the work S.V. Rachmaninov Prelude E-major, op.23 no. 6
	中條 響	学部 3年	第6回なごや青少年ピアノコンクール	大学生・大学院生部門 第3位
	開坂 望生	学部 2年	第14回セシリア国際音楽コンクール本選	ピアノ部門 大学生の部 II(スター/専門) 第1位
	開坂 望生	学部 2年	第21回大阪国際音楽コンクール(FINAL STAGE)	ピアノ部門 Age-U エスポータル賞
	瀬尾 百雅	学部 2年	第22回万里の長城杯国際音楽コンクール	ピアノ部門大学の部 第3位
	瀬尾 百雅	学部 2年	第2回多治見音楽コンクールin Kasugai	ピアノ部門大学・一般の部 金賞
弦楽器	山田 ありあ	学部 2年	第1回ラフマニノフ国際ピアノコンクール JAPAN	G部門 第2位、カツアラヴァ賞
	吉岡 瑞貴	学部 2年	第36回愛知ピアノコンクール	ソロ部門 大学・一般部門 金賞
	吉岡 瑞貴	学部 2年	第13回ベーテン音楽コンクール 全国大会	大学・院生Aの部 ベスト10賞
管楽器	関 志帆	学部 1年	第21回大阪国際音楽コンクール(FINAL STAGE)	ピアノ部門 Age-U エスポータル賞
	荒川 太一	博前 1年	第28回 日本クラシック音楽コンクール 全国大会	ヴァイオリン部門 大学の部 第5位
	久永 彩加	学部 4年	ぎふ弦楽器賞とプロジェクト(STROAN)オーディション	合格
	坂田 晃子	学部 3年	第30回日本クラシック音楽コンクール 全国大会	チェロ部門大学の部 第5位
	梅村 直弥	学部 3年	第30回日本クラシック音楽コンクール 全国大会	コントラバス部門大学の部 第5位
	安田 果穂	学部 2年	第74回全日本学生音楽コンクール 大阪大会	チェロ部門 大学の部 第2位 全国大会出場
管打楽器	林 まり恵	博前 1年	第22回日本演奏家コンクール 本選	一般Aの部 第2位
	林 まり恵	博前 1年	新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ・オーディション(名古屋)	合格
管打楽器	前田 秀明	2016 卒業	仙台フィルハーモニー管弦楽団	入団(パーカッション)
	服部 洋樹	2014 卒業	2020年度公益財団法人 山田貞夫音楽財団 指揮者オーディション	山田貞夫音楽賞
	西浦 千陽	学部 3年	新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ・オーディション(名古屋)	合格
	高橋 喜仁	学部 2年	第6回K金管楽器コンクール	第2位
	晶山 弘人	学部 1年	第39回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	フルート部門 大学生の部 第3位

「愛芸アシスト基金」の目的

愛知県立芸術大学が地域における芸術文化創造活動の拠点として多くの方々に親しまれ、理解を深めていただくとともに、学生や教員の意欲的で創意あふれる活動を推進することです。皆様方に支援の一翼を担っていただければ幸いです。



皆様のあたたかい寄附をお待ちしております。

個人 1万円/1口
法人 10万円/1口

